

# 医療

MEDICAL TOP INTERVIEW  
トップインタビュー

健康は何ものにも代え難いが、いつ病気になるか、事故に遭うかは誰にも分からない。高齢化や核家族化が進む県内でストレスや不安を抱えながら暮らす私たちにとって、医療機関は命を守る最後のとりでだ。県内各地の医療現場では、医師や看護師、介護スタッフらが協力し、さまざまな病気の患者とその家族を支えている。「ここからは、各地で医療に従事し、予防から救急まで、あらゆるシーンで地域住民と向き合っている医師のインタビューを通して、医療現場の思いを届けよう。



玄真堂 理事長  
川 眞人氏

## 足元掘り続け世界へ通じた道

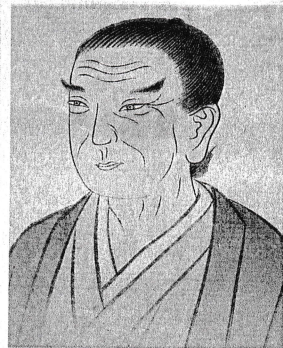
昨年6月、モントリオールでの国際潜水高気圧環境医学会で、新設された「眞野／川眞 ヤングサイエンティスト賞」が授与された。

川眞理事長と、理事長の大学同窓である故・眞野喜洋氏の名前を冠した賞は、両氏が長年、学術研究に努め、学会発展に貢献してきた証し。自身の名の賞であるため、選考には関われなかったが「偶然、受賞したのが大学後輩の研究者だっ

たことは二重の喜びでした」と振り返る。

川眞理事長が高気圧医療研究に携わったのも偶然。1972年、九州労災病院勤務となった時、当時の天児民和院長から「君は高気圧医療が先進的な東京医科歯科大出身だから、これをやりなさい」と言われたのがきっかけだった。「右も左も分からないまま研究に取り掛かったが、支えになったのは恩師の言葉『井の中の蛙は水の底を掘っていけばや

大分ゆかりの医療の先哲たち File.1



前野良沢  
Maeno Ryotaku  
1723(享保8年)～1803(享和3年)

中津藩医前野良沢はオランダの解剖書「ターヘル・アナトミア」を日本で初めて翻訳し、「解体新書」を出版するにあたって盟主たる役割を果たした。その後も数多くの翻訳書を著し日本の蘭学を発展させ「蘭学の鼻祖」と呼ばれながらも出版することはせず学問一筋に身をささげたため、あまり世に知られていない。しかし福沢諭吉らが日本の近代化に大きな役割を果たした背景には、この前野良沢とその活動を支えた奥平昌鹿など歴代の奥平藩主の功績が大きく影響したと思われる。彼の蘭学に対する関心は医学にとどまらず、天文学、地理学、自然科学、ロシアの研究など広範囲に及んで翻訳をしている。その生涯は大分県教育委員会発行「大分県先哲叢書 前野良沢」に記されており、鳥井裕美子大分大学教授らの努力によって、世間に周知されるようになった。このような偉大な先哲を生み出したことは大分県としてもっと誇りに思っているのではないかと考えている。

(川眞整形外科病院長 川眞眞人)

がて大海に通じる』でした。こつこつ研究したことが世界の学会につながった。最先端の研究といえば、すぐ海外に目を向ける医師が多いが、足元の研究を地道に続けることが世界へ通じる道と語る。理事長の背中を見て「川眞イズム」を受け継いだ職員らは、医師にとどまらず、臨床工学士、作業療法士や理学療法士らも海外の学会で発表、看護師は専門誌へ連載をしている。

「世界と世界との積極的な交流を推奨する背景には、理事長の「中津の地で世界レベルの医療を提供する」という強い思いがある。大分県病院協会会長も務める川眞理事長は「中津、そして大分の医療をレベルアップさせたい。そのためにはまず自分の病院」と語り、昨年は新たにリスクマネジメントが専門の教育担当を採用した。

### 病院DATA

●診療科目  
整形外科・リハビリテーション科  
リウマチ科・放射線科・脳神経外科

●診療時間  
月～金/9:00～17:30  
土/9:00～12:00

●休診日  
日曜、祝日、年末年始(12月30日～1月3日)



常に世界レベルの医療提供を目指す